Nissenken

ISO 21702

▶ バイオケミカルグループ 試験ファイル

ISO 21702 -プラスチック及びその他の非多孔質表面の抗ウイルス活性の測定-とは

ウイルスは風邪をはじめとする疾病や食中毒の原因となります。また、人口の密集した環境は不特定多数の人との間接的な接触が多く、より衛生面でのリスクが高くなります。抗ウイルス加工は製品に付着したウイルスを減らして清潔に保ち、衛生的な環境づくりにも役立つことができます。これらの抗ウイルス加工を施したプラスチックなど非多孔質表面の抗ウイルス効果を評価する方法が ISO 21702 です。

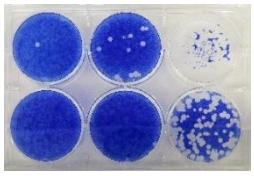
*直接、病気の治療や予防を目的とするものではなく、ウイルスの働きを抑制するものでもありません。

- 適用範囲

  プラスチック製品・金属製品・セラミックス製品などが対象です。

- 試験概要

  5cm 角の抗ウイルス加工品と無加工品にウイルス液を接種し、4cm 角のフィルムを被せ、24 時間静置します。静置後、試料上のウイルスを回収し、感染価を測定します。抗ウイルス加工品と無加工品を比較することで、どの程度ウイルスを減少させたかを抗ウイルス活性値[R]として算出します。



- 抗ウイルス効果

  ISO 規格では効果の目安については記載されておりません。

  *SIAA では本規格を試験方法として採用しており、基準は R≧2.0 としています。

SIAA マーク

SIAA マークとは抗菌製品技術協議会(SIAA)が制定したシンボルマークのことです。抗ウイルス性・安全性・適切な表示の 3 つの基準を満たした製品に SIAA マークを表示することができます。ニッセンケンは指定試験機関として、当該製品の抗ウイルス性を評価するための試験を行っています。

SIAA
ISO 21702
抗ウイルス加工

詳細は・・・

▸本規格に関するより詳細な資料(PDF ファイル／27 ページ)は、こちらからダウンロードできます。

▸バイオケミカルグループ 特設サイトでは様々な情報を発信しています。ぜひご覧ください。

© 一般財団法人ニッセンケン品質評価センター

ライフ アンド ヘルス事業本部 バイオケミカルグループ
✉ biochemical@nissenken.or.jp ☎ 03-5875-7271